

第09講 【 蔵象Ⅱ 】 教科書 P.38～40

『 心 』

[ 別称 ] 君主の官『素問』；五臓六腑の大主；生の本

[ 位置 ] 背の第5椎に付く

[ 特徴 ] 清静を好み、躁動を嫌う；火熱を嫌う

[ 生理機能 ]

：心には“血脈を主る”“神志を主る”“温煦を主る”の3つの働きがあり、なかでも“血脈を主る”と“神志を主る”の2つの働きが重要である。

1. 血脈を主る（主血脈）

{ 血を主る（主血）  
 脈を主る（主脈）

\* “血脈を主る”働きには“血を主る”と“脈を主る”の2つの内容が含まれている。

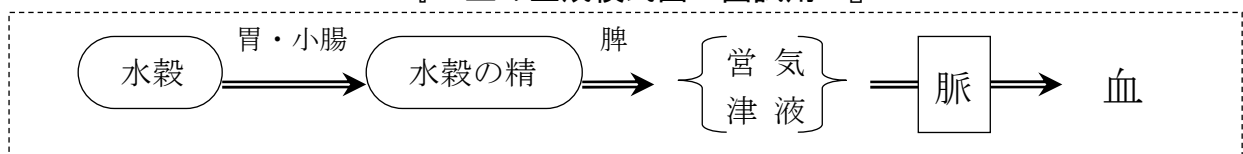
1) 血を主る

：心は全身の血を主っている。血の生成と運行が含まれる。

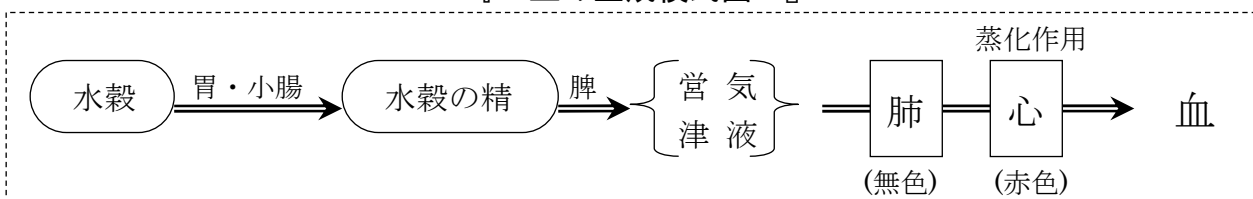
① 血の生成

血の生成 { \* 精(腎精)が変化してできる血  
 (出生直後；大量出血等瀕死の場合) → 心は関与していない  
 \* 水穀から転化してできる血 → 心に関与

『 血の生成模式図：国試用 』



『 血の生成模式図 』



## ② 血の運行

: 心気は血運行の原動力である。血は心気の推动作用により流動している。

## 2) 脈を主る

: 心は全身の血脈を主っている。

\* 心と脈はつながっており、心は脈の状態を維持する働きがある。

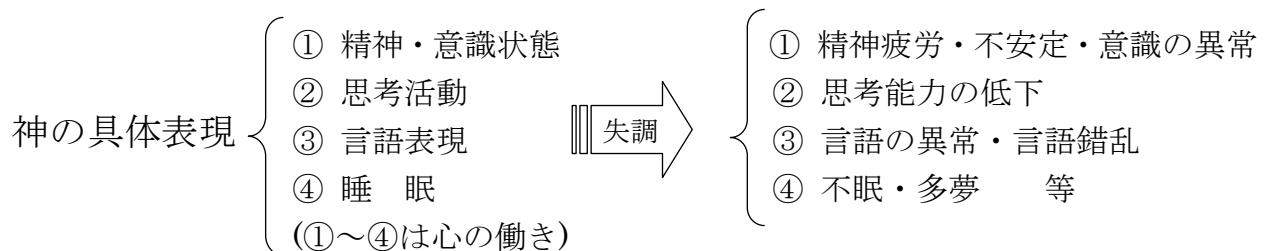
### 『 正常な血運行の基本条件 』

① 心気の充実 :	原動力	{	心気亢進 → 血行加速
			心気減弱 → 血行減速
② 血脈の通暢・無傷 :		{	不通暢 → 血行減速・停滞(瘀血)
			不完全 → 出血
③ 血量の充実 :	多すぎても少なすぎても血行の異常が生じる。 また、肝の蔵血作用等が関与している。		

## 2. 神(志)を主る

: 神(志)とは人の精神・意識・思考・感情活動を指し、心はそれらを主っている。  
(神) (志)

神の分類	神	魂	意	魄	志	} 心が主る
志の分類	喜	怒	思	悲	恐	
対応臓腑	心	肝	脾	肺	腎	



### 3. 温煦を主る

: 心には全身・臓腑・組織を温める働きがある。(主に心陽の働き)

\* 心は五行中 火行に属すことから『生命の火』と呼ばれる。

[ 系統 ]

主	華	官	液	神	志
血脈	面色	舌	汗	神	喜

#### 【練習問題】

問1. 心の臓の生理・病理について誤っているのはどれか。

1. 心は血脈をつかさどる
2. 心は疏泄をつかさどる
3. 心は神を蔵す
4. 心は舌に開竅する

問2. 神を蔵し君主の官といわれるのはどれか。

1. 肝
2. 心
3. 肺
4. 腎

問3. 臓腑と開竅部との組み合わせで正しいのはどれか。

1. 肝 ——— 口 唇
2. 心 ——— 舌
3. 脾 ——— 耳
4. 腎 ——— 目

問4. 次の中で心の働きが失調したことにより現れる症状はどれか。

1. 腰痛
2. 咳嗽
3. 泄瀉
4. 失眠